

英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献

(豊田工業高等専門学校) ○西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃

1. まえがき

豊田高専では、2004年度に英文多読図書を図書館に導入し、図書館における英語多読授業を開始したところ、学生の英語運用能力が顕著に向上し、学生の図書館利用が活性化された。さらに2005年度からは英語多読の公開講座を開始したところ、地域住民の図書館利用も拡大、新しい地域貢献の形となり得ることが分かってきた。本報では、高専図書館が英語多読を通じて、授業支援と地域貢献の両面で役立っている本校の事例を報告する。

2. 英語多読

2.1 英語多読授業とは

高専生の英語に対する苦手意識克服のため、豊田高専電気・電子システム工学科（以下、E科と略称）では、2002年度に英語多読授業を導入した¹⁾。授業時間のほとんどを、やさしい英文図書の読書にあて、日本語に翻訳することなく大量の英文を読んでもらう授業である。担当教員の助言下、受講学生は各自の読解力、嗜好に応じて多種多様な本を読むが、約30万語の累積読書量を目安に受講生は、読書速度が向上、日本語に翻訳しない読み方に変化し、英文を読むのが楽になったと実感している²⁾。

E科では2004年度に対象学年を拡大、本科2年～専攻科2年の6学年で一斉に多読授業を開始したが、この際に多読用英文図書を図書館に集め、図書館で授業を行う体制に移行している。

2.2 英語運用能力の改善効果

2004～2006年度の3年間継続して英語多読授業を受講した4年生以上（2006年度の本科4,5年と専攻科1,2年）の学生の改善状況を概述する。

対象学生86人は、累積読書量（中央値）45万語の英文図書を読んだ。読書速度を毎分80語とした場合、授業時間内に読むことのできる32.4万語以上を読んだ学生は59人（69%）であり、授業時間内にコアとなる読書時間を確保したことで、一定値以上の読書量を確保できていることが分る。

2006年度の学科学生の学年別 TOEIC（年間ベ

ス）平均点を見ると（図1）、多読授業1年目となる本科2年生の TOEIC 平均点は同年代の高校2年生全国平均より58点低いものの、多読授業2年目となる3年生では高校3年生に追いついており、多読授業3年目となる4年生以上（本科4,5年と専攻科1,2年）では、TOEIC平均点が440点となり、同年代の（文系を含む）大学生全国平均を超えるクラスも出てきている。また、本科4,5年の平均点は、高専全国平均よりそれぞれ100, 74点高くなっている。

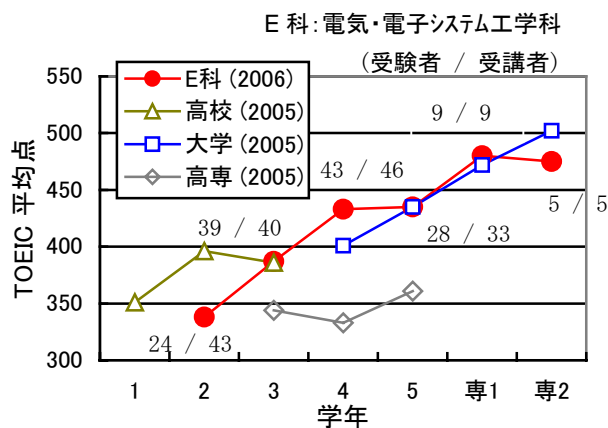


図1 学年別 TOEIC 平均点（2006年度）

複数回受験した場合は最高点（年間自己ベスト、専2は2年間の自己ベスト）。公開受験、団体受験区別なし。E科データからは、外国人留学生、英語圏への留学経験者（2年3名、3年2名、4年2名、5年7名、専1年1名）を除外。

この結果は、創立以来40年英語が弱いと言われて続けてきた高専生の英語運用能力が、3年間（3単位）の英語多読授業の追加により顕著に改善され得る可能性があることを示しており、同様の状況にある多くの高専の参考にならう。

3. 図書館の授業支援

3.1 多読授業における図書館の役割

大量の英文図書を用いる多読授業を複数のクラスで行うために、我々は多読用図書を図書館に集めた（2007年3月の時点で7,000冊）。複数の多読授業が重ならないよう時間割を組み、多読授業1年目に最も使用頻度の高くなるYL³⁾：0.8未満の

やさしい英文図書は館内閲覧専用（貸出禁止）に設定した。英語多読用図書は、入り口正面に面した新刊書の隣の書架に配置したため（写真1）、来館者は多読用図書の書架を容易に見つけることができる。



写真1 英語多読図書用書架（の一部）

授業中の学生は、館内のブラウジングスペース、自習用スペースを用いて各自のペースで英文読書を行うため、着席位置は図書館内全体に広がることになるが、多読授業中に図書館を頻繁に利用する他の科目はないため、支障はない。学生の選書に役立つよう、全ての多読用図書の裏表紙には、YLと語数を表示したシールを貼ってある。

3.2 学生の図書館利用の活性化

多読授業では、やさしくて短い本を授業時間内に読み、やや長めの本を借りて授業時間外に読むよう指導しているため、2004年度以降は、E科学生の（多読用図書が属する）「言語」の館外貸出し冊数が急増している（図2）。

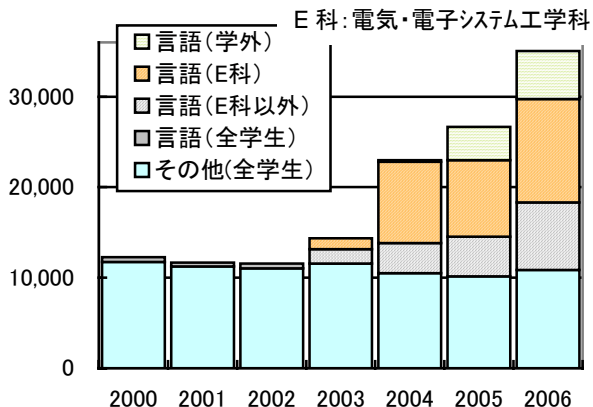


図2 図書館館外貸出冊数の経年変化

2005年度以降は、E科以外の学生による「言語」

の貸出冊数も着実に増え、英語多読が学内の文化として徐々に広がりつつある。その結果、2006年度の館外貸出冊数は多読導入前の約3倍となった。

E科学生では、「言語」以外の館外貸出冊数でも長期低落傾向に歯止めがかかった。例えば、2006年度の貸出冊数は（多読図書導入前の）2000～2002年度平均に比べ、理系分野で2割、文系分野でも1割多くなっている（図3）。

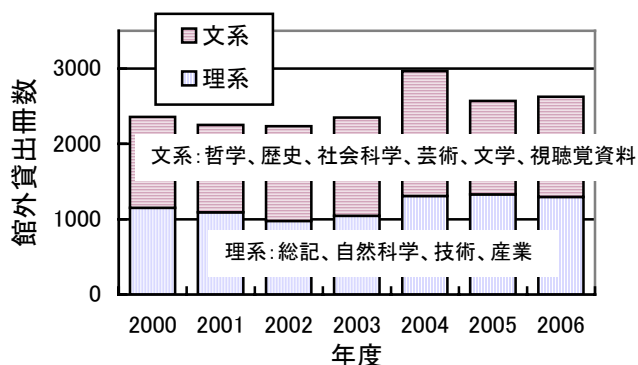


図3 E科学生の分野別館外貸出数の経年変化（言語以外）

3.3 学外利用者の図書館利用の増加

多読用図書の導入により、学外者の図書館入館者数も増えている（図4）。統計を取り始めた2003年度～2004年度は年間500以下であった学外入館者数も多読の公開講座を始めた2005年度以降に増加し、2006年度は1,933人と4倍に増えた。近頃は学外入館者のない日は珍しい状態となっているが、授業時間にも学外利用者が多読用図書を探している姿が散見され、学生の学習意欲向上にも貢献していると考えている。

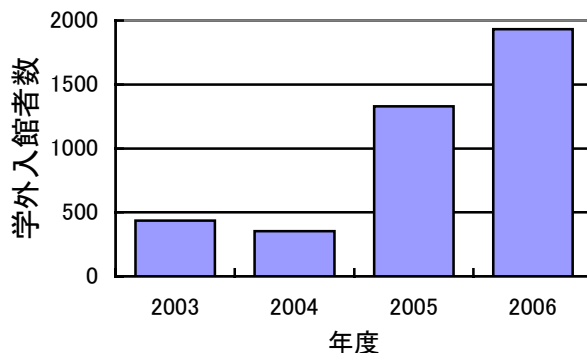


図4 学外入館者数の経年変化

学外利用者の館外貸出は「言語」に集中しており、2006年度には学外者による「言語」館外貸出冊数が5,299冊と全貸出冊数の15%を占めている（図2）。英語多読は、本校図書館の新しい地域サービスになり始めている。

4. 英語多読による地域貢献

4.1 公開講座の実施

2005年度以降、英語多読を主題とした公開講座を4回実施している(表1)。

表1 英語多読関連の公開講座実施状況

年月	場所	実施日	参加数	備考
2005 8月	高専	平日3日	15(7)	
2005 10月	市施設	週末2日	33(0)	市共催
2006 8月	高専	平日3日	8(8)	
2006 10月	市図書館	週末2日	28(2)	市共催

参加者(内数)は小中学生

8月の講座(平日開催)の受講者は中学生が多いが、10月の講座(豊田市との共催講座)は、社会人・一般が受講者の大部分を占めた。

中学生受講者が数日間の体験講座で英文を読めるようになる感覚を掴むことは難しく、多読指導が中学校における英語教育と大きく異なるためか、講座のインパクトは比較的弱いように感じる。

他方、社会人受講者は、仕事または趣味で英語利用の必要性が高い、他の学習法で挫折し実効ある学習法を探している、英語多読を知っている(が体験の機会がなかった)等の理由から、講座に対する期待も高い。短時間の説明後に、自らの英語学習体験と照らし合わせて多読の考え方に賛同を得られる場合が多く、中には講座期間中に多読の効果を実感できる受講者もいる。講座後に本校図書館に利用登録し、英語多読を継続している方も少なくない。

受講後のアンケートによれば、両時期とも受講者の評価は高いようである(表2)。

表2 受講者による公開講座の評価(2006年度)

	IT	教養	英会話	多読8月	多読10月
理解度	3.46	3.40	2.91	3.60	3.58
満足度	3.23	2.73	2.74	3.40	3.31
回答数	13	15	23	5	26

理解度、満足度は、0~4の5段階評価、数値大ほど高評価

このような状況から、今後の英語多読の公開講座は、社会人を主対象とし、本校図書館の学外利用者のサポートを兼ねながら、地域の生涯学習を支援する形へと発展させるのが妥当と考えている。

4.2 学外利用者向けサービス

公開講座をきっかけに、本校図書館の多読用英

文図書は利用者が急増しているが、公開講座を受講せずに利用を始めた学外者の中には、(日本語に翻訳せずに英文を直接理解することを目指す)多読の方法を十分に理解していないケースも見受けられる。そこで、公開講座の宣伝を兼ね、本校図書館の学外利用者向けに英語多読体験会(無償)を2005~2006年度の(公開講座を行わない)秋から冬にかけて4回実施した。

また、図書館利用者が、読みたい英文図書の英文のやさしさ、長さジャンルを、端末画面上のフォームに入力すると、条件に最も近い推薦図書のリストを表示する選書システムを構築、インターネット上で公開した(図5)⁴⁾。同システムは携帯電話からもアクセス可能であるため、相談者のいない学外利用者が本校図書館以外で図書選択する際にも役立っている。

お薦め図書						
入力データ 語数2000, YL:1.2.						
Series	Title	ジャンル	YL	語数	お薦め度	ISBN
MNW2	Double Danger	CS	1.2	1000	☆☆☆☆☆	0435277243
MGR2	Picture Puzzle	CS	1.2	2500	☆☆☆☆	0333956451
PGR1	Marcel and the Shakespeare Letters	MY	1.0	2100	☆☆☆☆	0582427681
MNW2	Karateka	CS	1.2	1000	☆☆☆☆	0435277251
PGR1	Brown Eyes	MY	1.0	1500	☆☆☆☆	0582417708
PGR1	Missing Coins, The	MY	1.0	1300	☆☆☆☆	0582427665
PGR1	Wrong Man, The (Cartoon Strip)	CS	1.0	1200	☆☆☆☆	0582427754
PGR1	Marcel Goes to Hollywood	MY	1.0	700	☆☆☆☆	0582427770
MNW1	Bookshop Trick	CS	0.9	650	☆☆☆☆	0435277006
MGR2	Money for A Motorbike	CS	1.2	2000	☆☆☆	0435271195

印刷

図5 多読用図書選書システム⁵⁾の出力リスト例

4.3 地域図書館との連携

特別貸出制度(10冊まで)を利用して、長期休暇中に多読用図書が不足する本校学生に便宜を図るため、これまで地域の図書館にも英語多読用図書の導入を積極的に働きかけて来た。

蒲郡市立図書館(愛知県)では、英文多読コーナーを新設し、2005年度からサービスを始めている(写真2)⁶⁾。このコーナーは、専用書架と数人分の椅子机を設置しており、1冊数分で読み終わってしまうやさしい英文図書を、じっくり腰を落ち着けて読むことができるよう配慮している。同コーナーで、筆者の一人が年10回程度の読書相談会を行うことにより、新たに英語多読を始める市民にも便宜を図っている。

同コーナー設置後、市民から200冊以上の児童書の寄贈もあり、2007年3月現在英文多読用図書は1,400冊まで増加、人口8万人の地方都市としては充実した図書構成となっている。また、同図

書館では、2006年5～10月の6ヶ月間の（多読用図書を分類した）「言語」貸出冊数は4,000冊であり、市民にも利用されているようである。



写真2 蒲郡市立図書館の英文多読コーナー

2007年度には、豊田中央図書館が800冊の多読用図書を新規導入した。同図書館が所蔵する14,000冊の英文図書（一般小説と絵本が中心）の利用を活性化させることを期待している。すなわち、多読用図書を利用して英文読解力を向上させた市民が、英文一般小説も利用するようになれば、長期的には既存の英文図書の利用も活性化されるとのシナリオである。多読用図書の選書、読書相談および読書相談員の育成等で、本校が同図書館のサービスを支援している。

その他にも、愛知県下では2005～2006年度にかけて、小牧と豊橋の市立図書館、愛知県図書館、豊橋技科大学と名古屋大学図書館が多読用図書を導入しており、各地で地域住民が手軽に英語多読を始めることのできる環境作りが進みつつある。

5. 考察

当初、英語に苦手意識を持つ本校学生の英語運用能力向上策として導入した英語多読授業は、前報²⁾で2年間の継続授業の効果を報告してから1年が経過した。その後も同授業を受講し、3年間継続した高学年学生は累積読書量を増し、更に英語運用能力を向上させている。7,000冊の多読用図書導入の費用対効果は、LL教室、e-Learningシステムより高い可能性もある。

授業実践面では、基本的には自律的な活動である読書を授業時間内に行うことが有効であること、担当教員の役割は読書環境の整備と読書相談が中心となることも、より明確となった。

他方、同授業を滞りなく進めるために必要とされる大量（多種多様）のやさしい英文図書は、日々進歩する学生個人の側から見ると利用時期が限定されるため、学外（地域社会）に利用を開放することも可能であると判断した。地域の図書館に収蔵されていないユニークな図書と、授業実践を通して確立した多読指導法を、地域に還元することで、高専が地域社会の生涯教育に、新しい形の貢献をすることができると考えている。また、授業内外に、学外者の積極的な利用状況を垣間見る機会は、学生に英語学習の必要性および多読の効果を物語っており、学生への動機付けにもなる。

英語多読授業は、従来の学校英語教育の手法との違いが大きいため、公立の高等学校で本格的に導入することは難しいようであるため、高専英語教育の特長として地域社会にアピールできる可能性がある。高専図書館の学外利用および地域図書館との連携は、高専の存在を地域社会に広報する一つの切り口ともなる。

6. あとがき

本校で始まった英語多読授業は、英語に苦手意識を持つ高専生の英語運用能力改善に顕著な効果があることが分っただけでなく、図書館の多読用図書利用を通じて、地域住民の生涯学習に対し新しい教育サービスを提供できる可能性も見えてきた。今後は、英語多読が、高専英語教育の特長として広く活用されるようになることを期待する。

ロボコン以外では、なかなか一般市民の知名度が上がらない高専の存在を新しいサービスを通じて知らしめることができれば、長期的には高専志望者増加にも貢献できるのではないかと。

参考文献

- 1) 吉岡、西澤：「英文多読による個別自律学習の指導」, pp. 65-68, 平成15年度高専教育講演論文集(2003)
- 2) 西澤、吉岡、伊藤：「苦手意識を自信に変える、英語多読授業の効果」, pp. 439-440, 論文集「高専教育」第30号(2007)
- 3) 古川他：「めざせ1000万語英語多読完全ガイドブック」, コスモピア(2005)
- 4) Furukawa et al: SSS Website: An Online Community which Supports Successful Extensive Reading for Learning English, proc. WBE07 pp.449-454 (2007)
- 5) <http://orchard.ee.toyota-ct.ac.jp/hmlab/>
- 6) <http://www.city.gamagori.aichi.jp/toshokan/tadoku/>